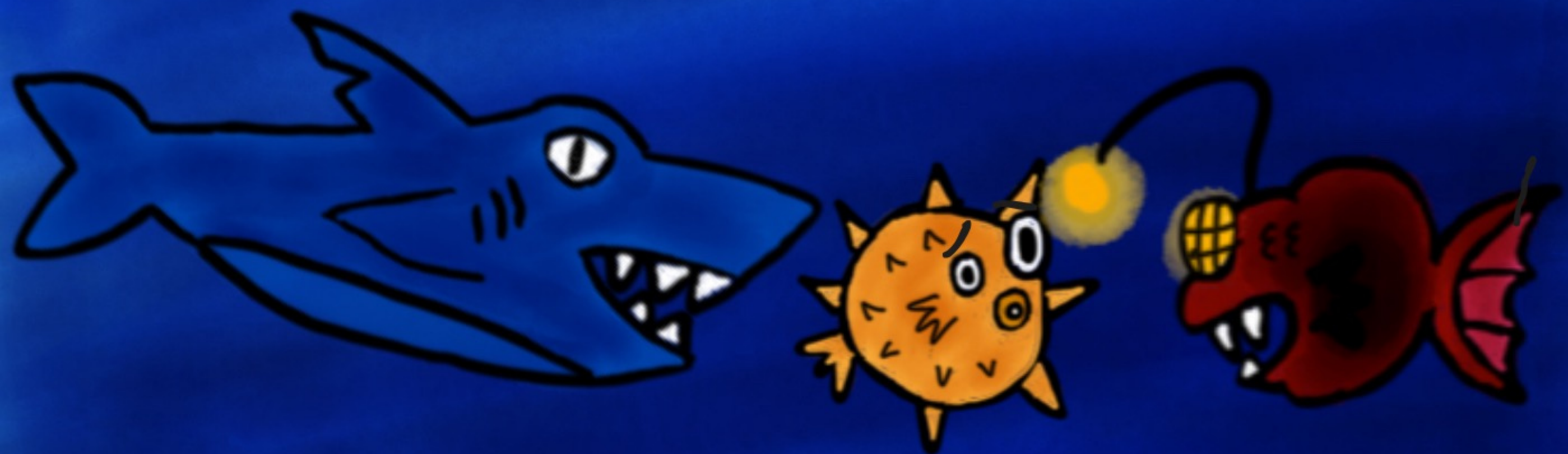
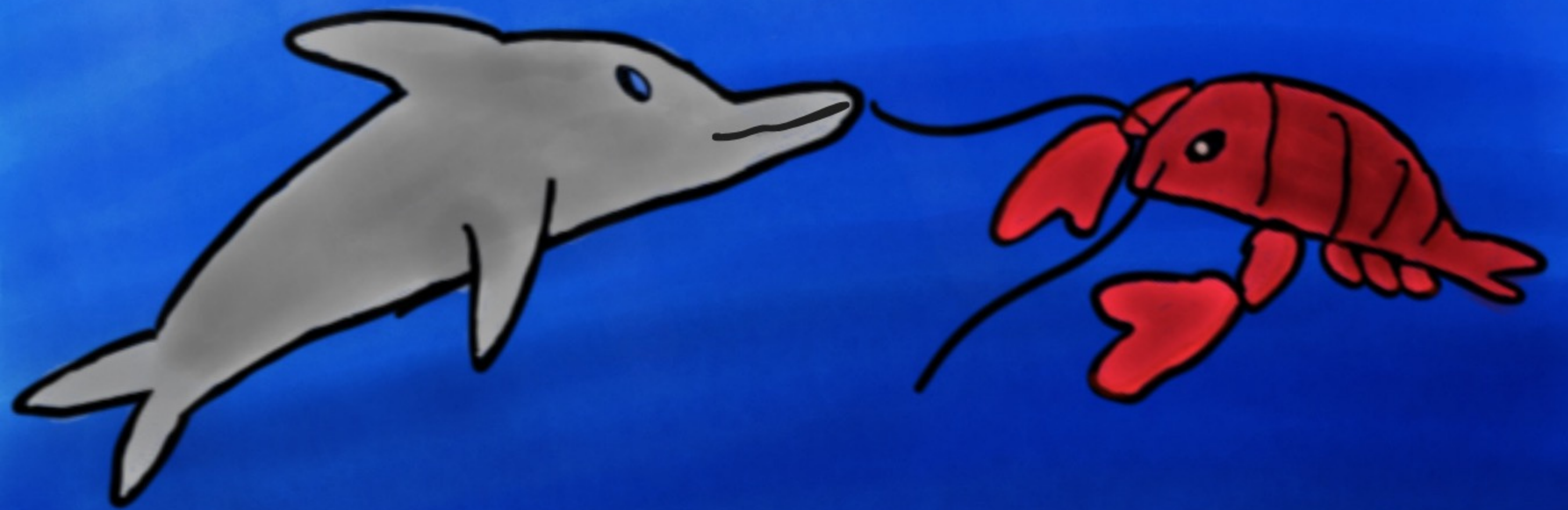


イルカさんが

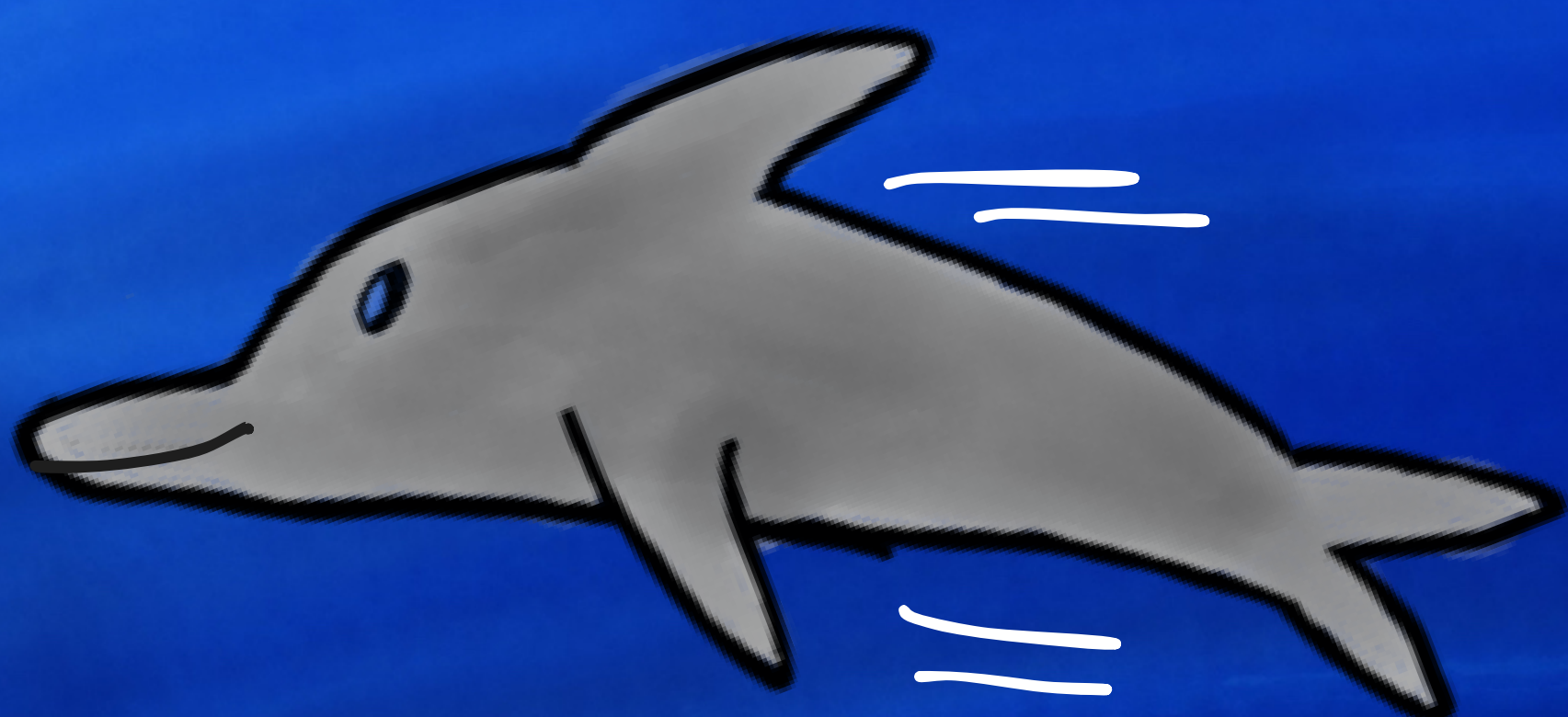
およ

つづ

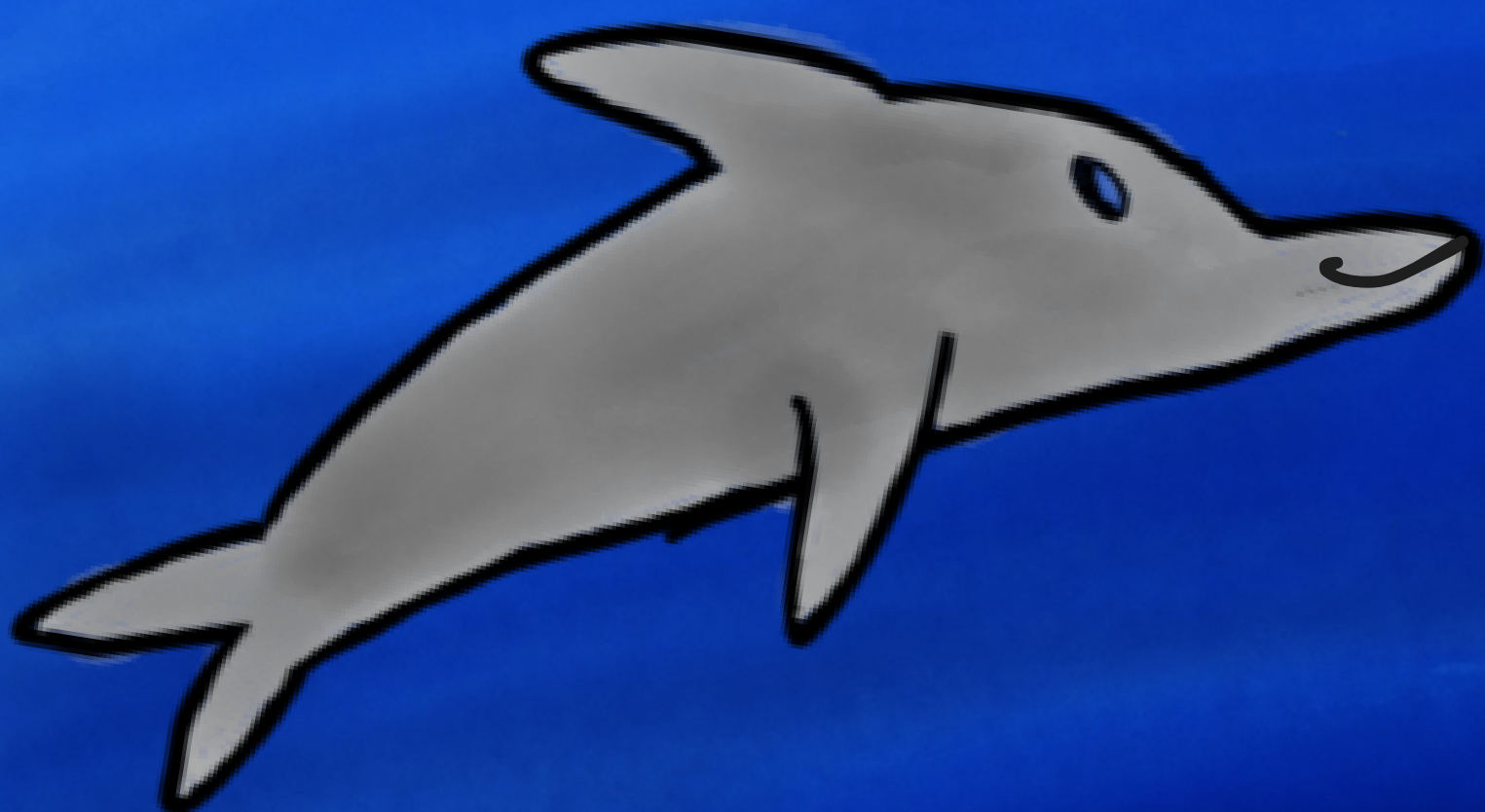
泳ぎ続け



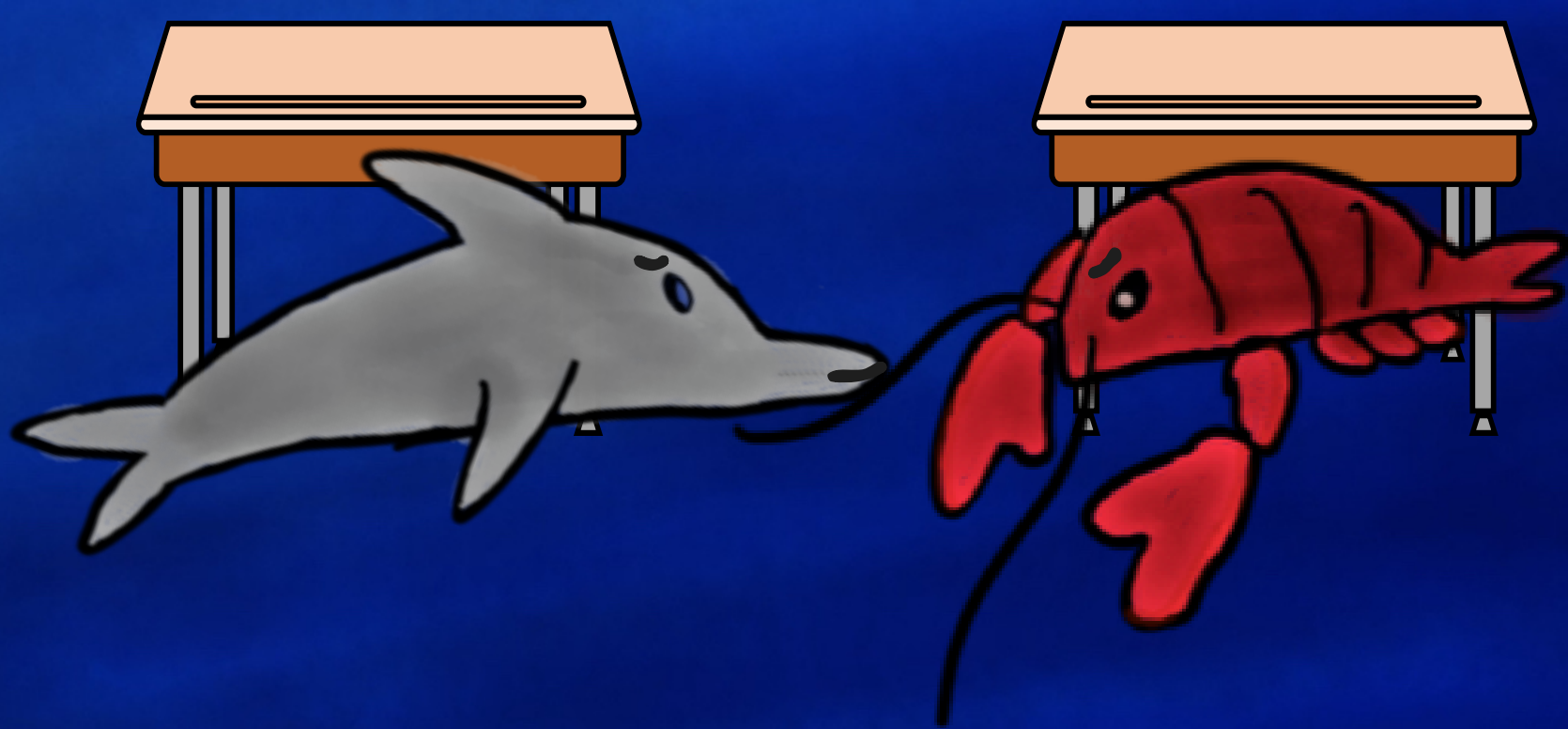
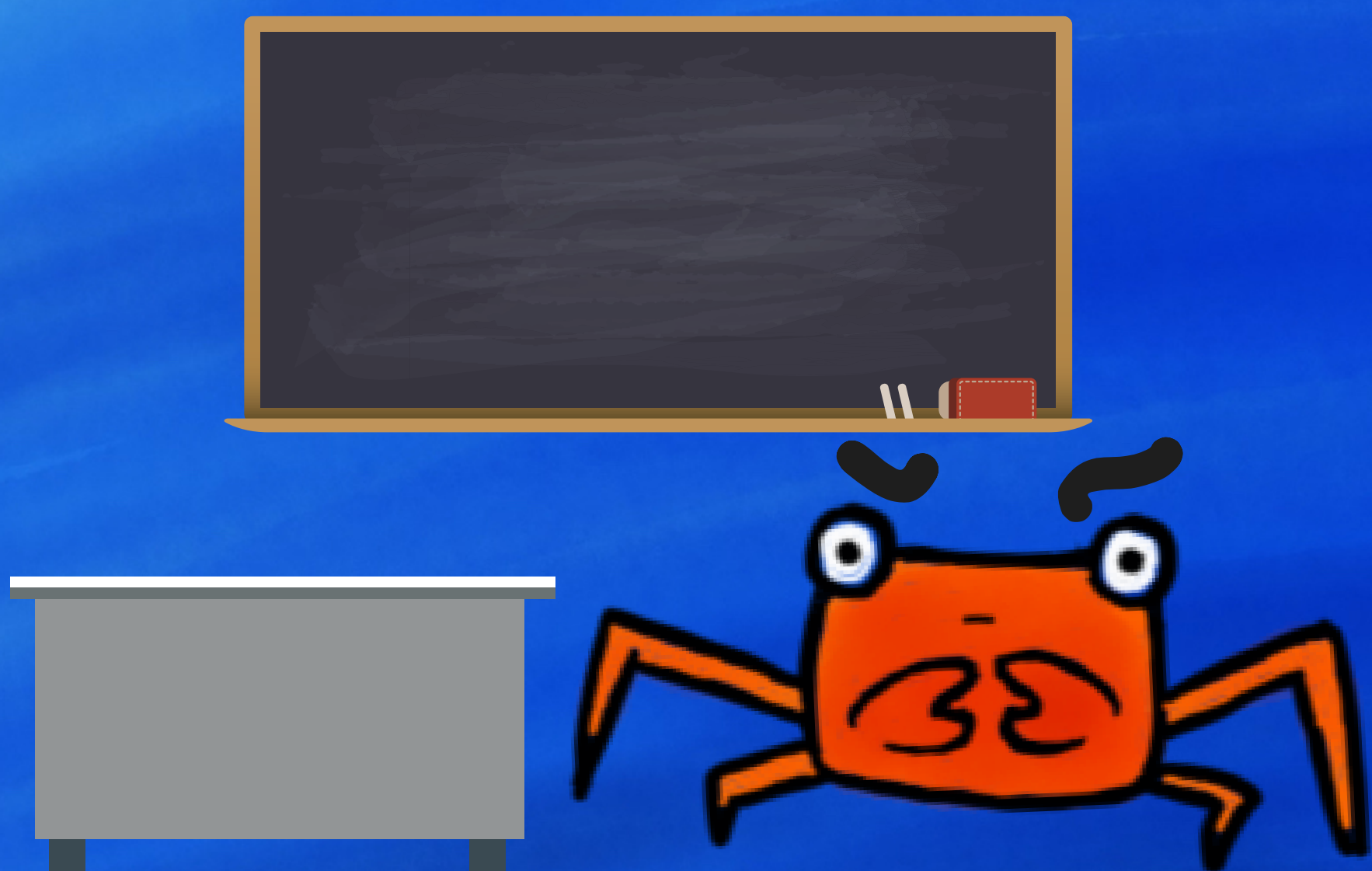
これは明るい春の日のことです。イルカさんは授業に元気に泳いで行きます。学校が大好きです。



イルカさんの行っている学校は普通の学校とちよつと違つうでしょう。この学校では学生たちが一人で寮に住んでいます。それで大人のように毎日イルカさんが自分で起きて準備してから学校に向かいます。



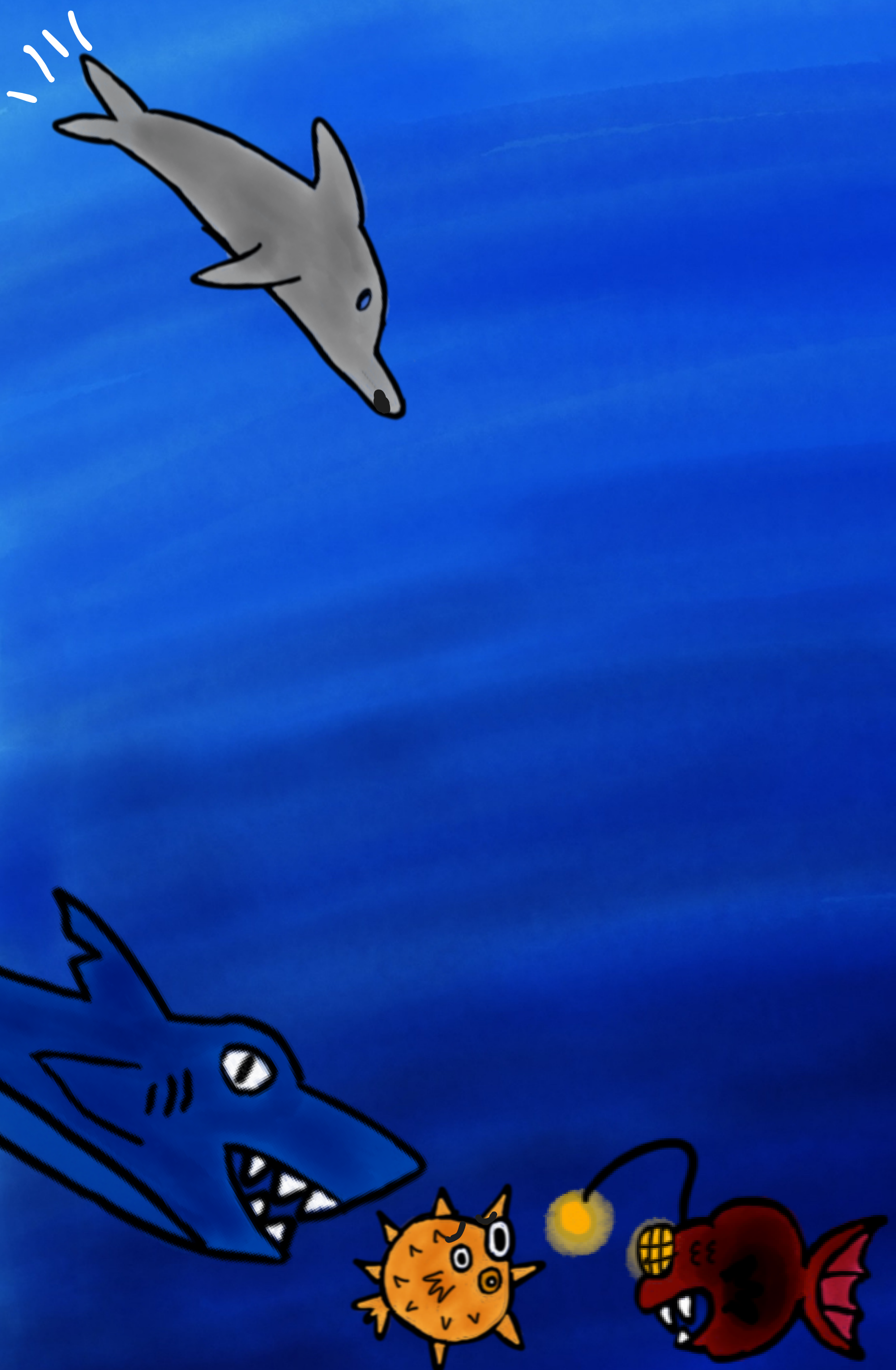
今日イルカさんは授業に着いたら、エビさんの隣に座って復習し始めました。そうしたらその二人は変な音が聞こえました。振り返ったら、サメさんとチヨウチンさんがクスクスしてイルカさんを見ました。そしてカニ先生が入って来て授業が始まりました。



その晩イルカさんが水泳部に泳いで行きました。イルカさんが水泳部の部長だからイルカさんにとって水泳部が大切です。今日の目的は誰が一番早く泳げるか見つけ出すことです。



急にサメさんとチヨウチンさんがやって来るとみんなは心配になりました。それに気づいていなかった二人が小さいトラフグさんの方へ寄つてトラフグさんをいじめ始めました。イルカさんはそれに気づいてすぐそちらに泳いで行きました。サメさんとチヨウチンさんは怒っているイルカさんが近づいているのに背を向けてトラフグさんを勝手にまだいじめました。



私たちが、どういふふうに見られる、必要はなかったよね～



イルカさんが、人気すぎてどうすればいいだろう～



あ、考えがあるよ。。。

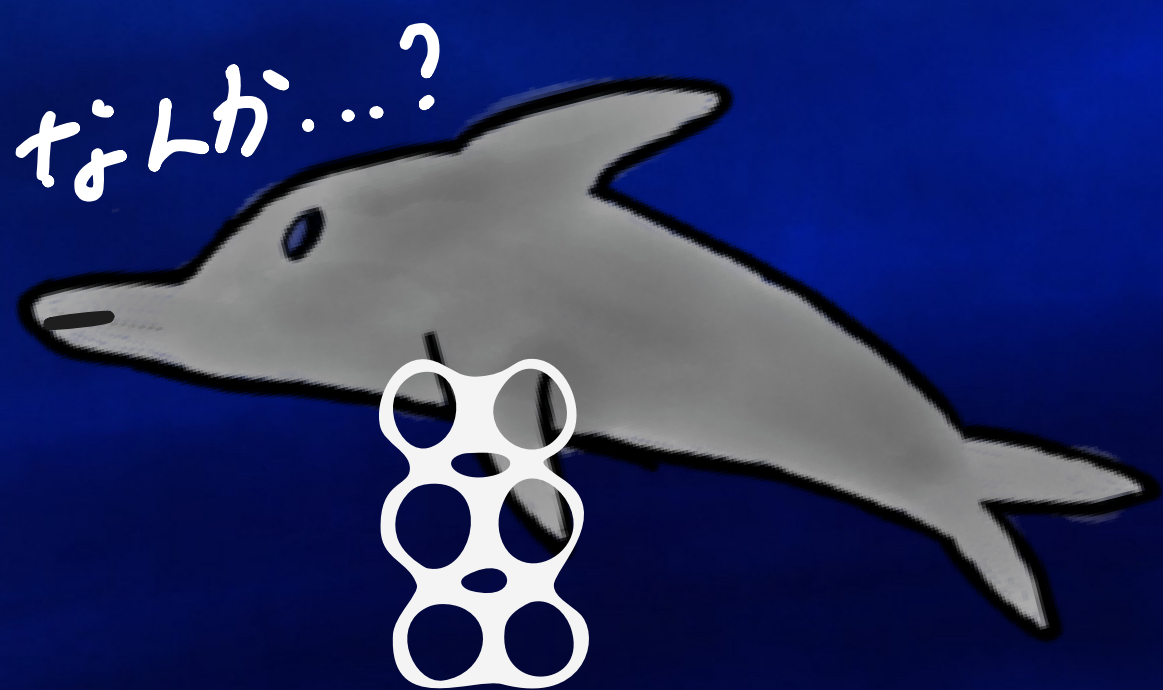
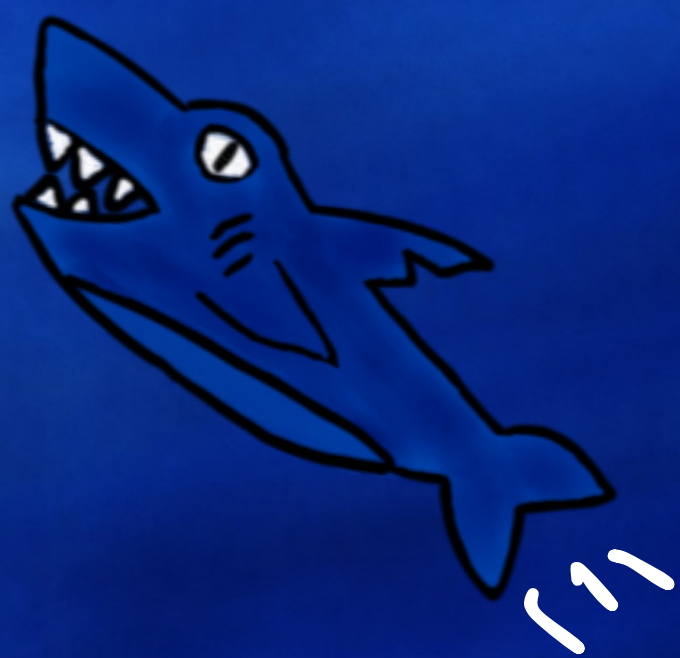
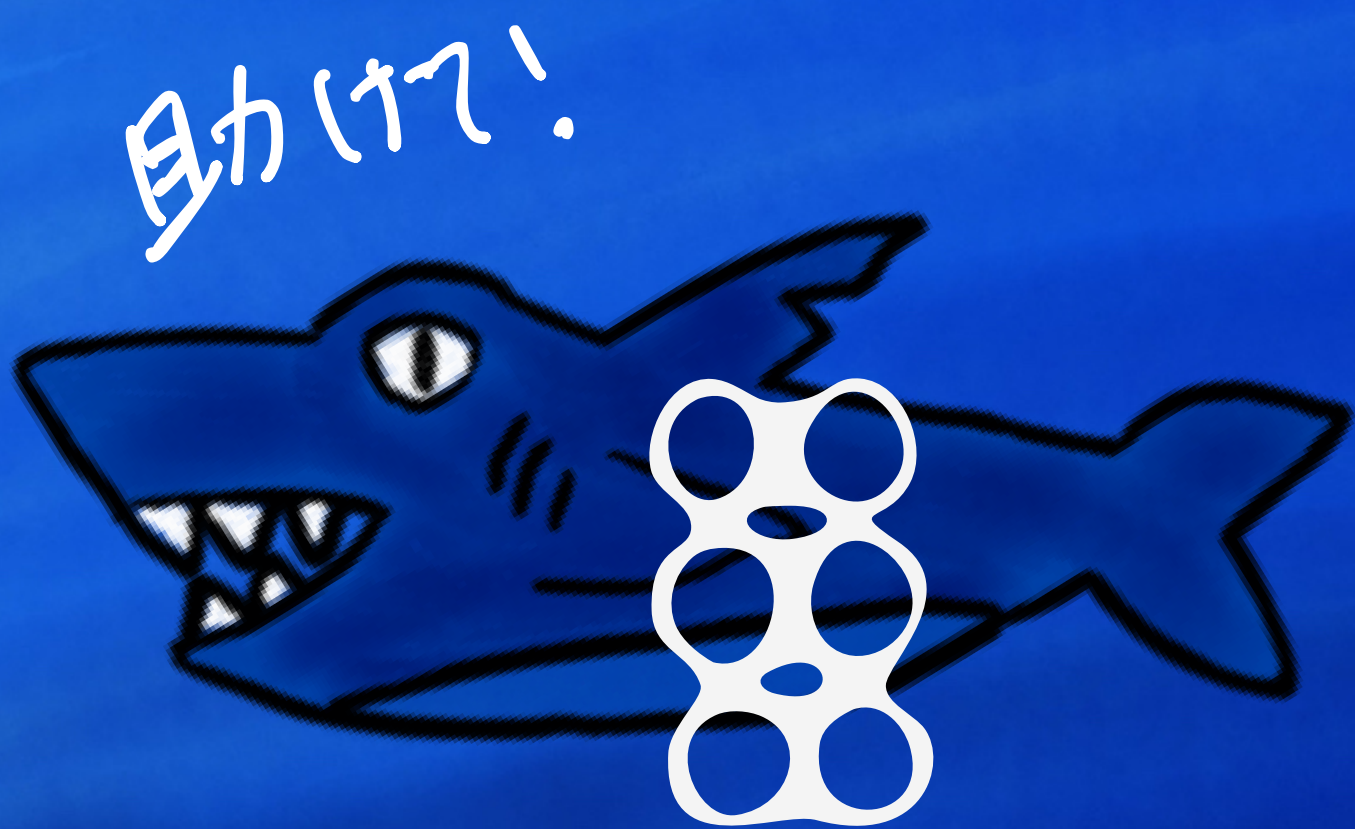
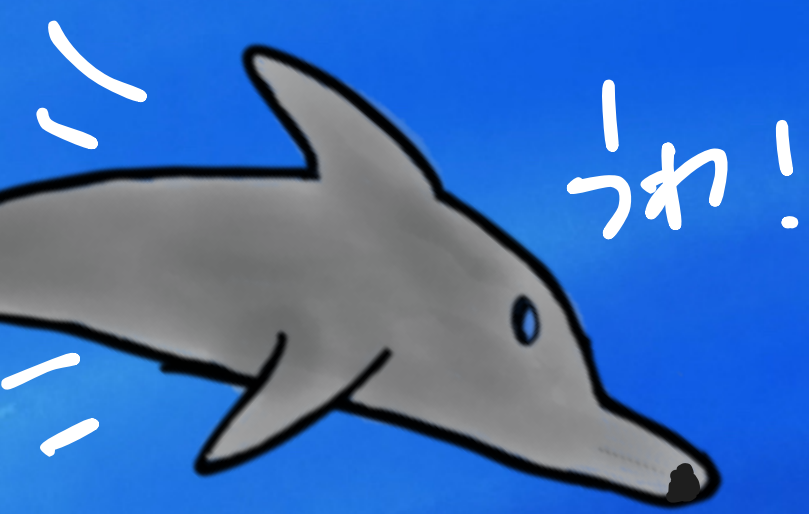


大丈夫だよ

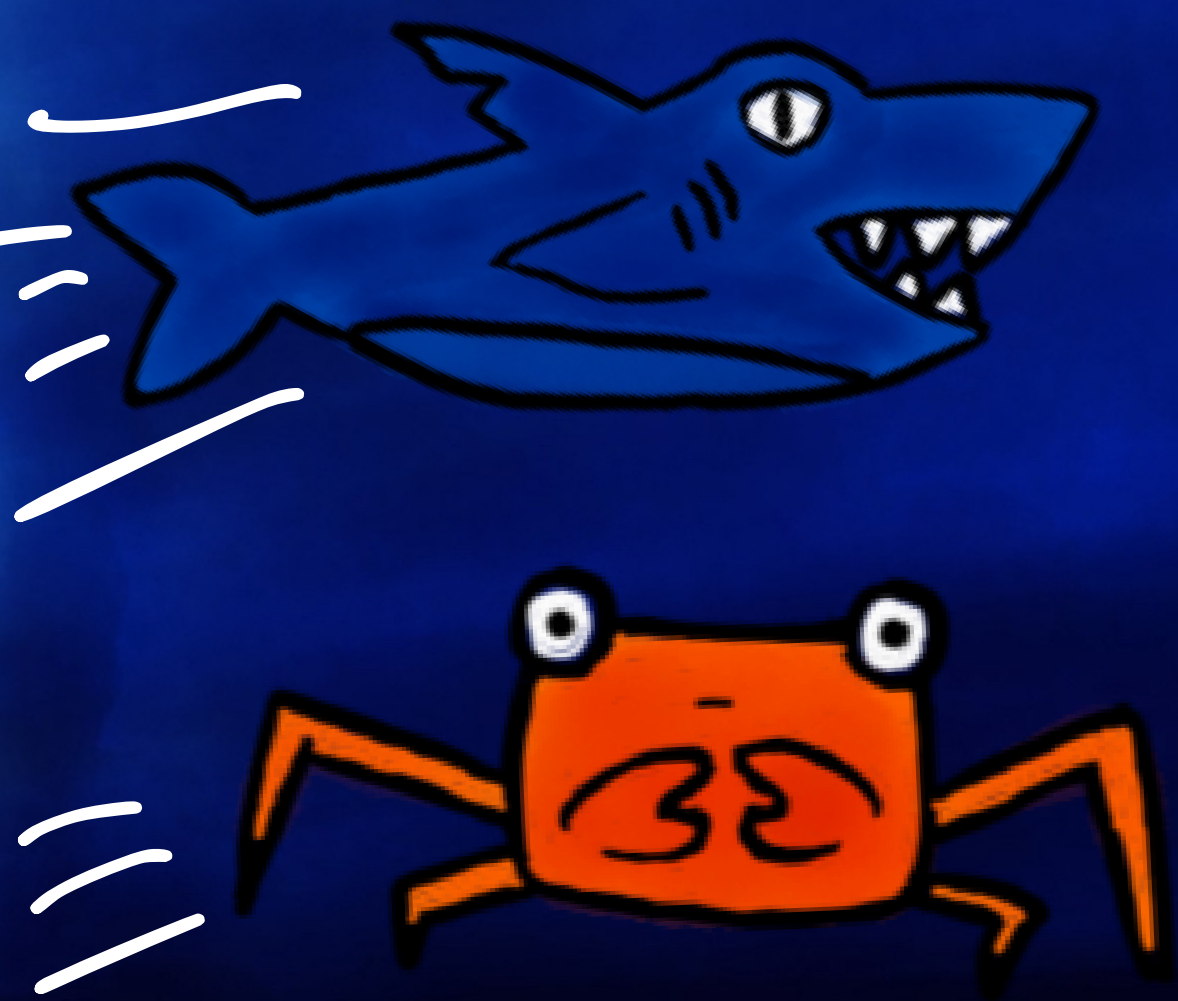
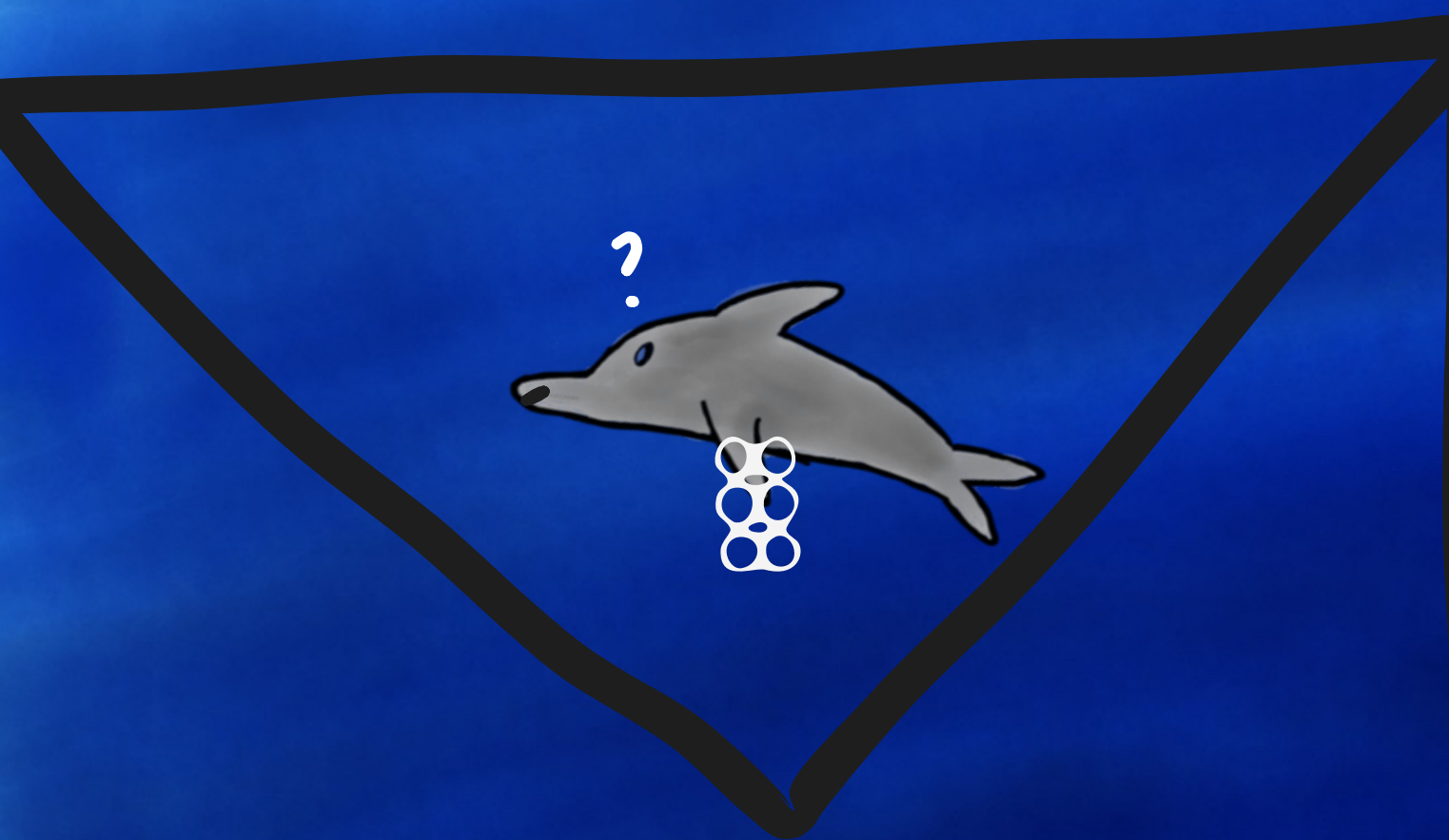


イルカさんが近くなりすぎたからサメさんとチヨウチンさんが早く逃げ出してしまいました。イルカさんは困っているトラフグさんを落ち着かせながら遠くなつたサメさんとチヨウチンさんが不満そうに振り返っているのに気づきました。怖そうなサメさんが笑いました。サメさんがチヨウチンさんに何か秘密をささやきました。

ある日、サメさんは間違えてプラスチックが体についちゃったフリをしていました。サメさんと仲良くしてないのに、イルカさんは困っているサメさんを見たら手伝いに急行しました。一緒に二人が頑張つてプラスチックが脱げたらサメさんは何も言わないで飛び出しました。プラスチックを持っているイルカさんは一人で残されました。



サメさんは先生たちに急いで行きます。カニ先生が見えたら、元気じゃなさそうなサメさんは「先生！先生！イルカさんがプラスチックを持っていきます！本当に今見たところなんです！」カニ先生はびつくりしてサメさんを見ながら「それはひどいです。」つて言いました。カニ先生は「でも本当なら連れて行って下さい。」サメさんはカニ先生を連れて騙しちやつたイルカさんへ向かいました。



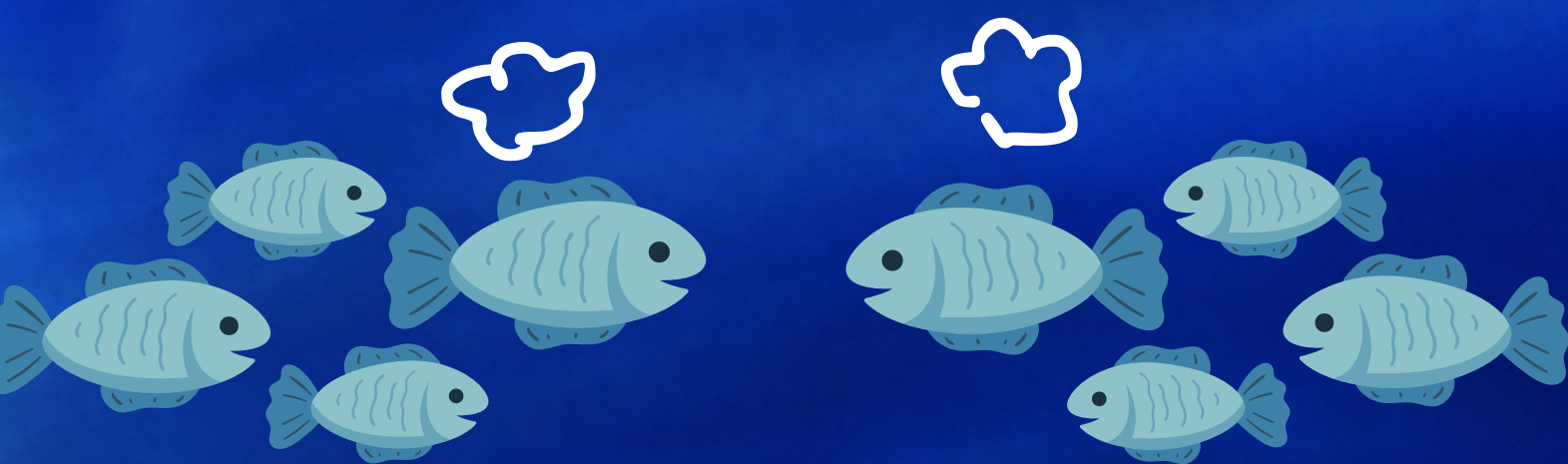
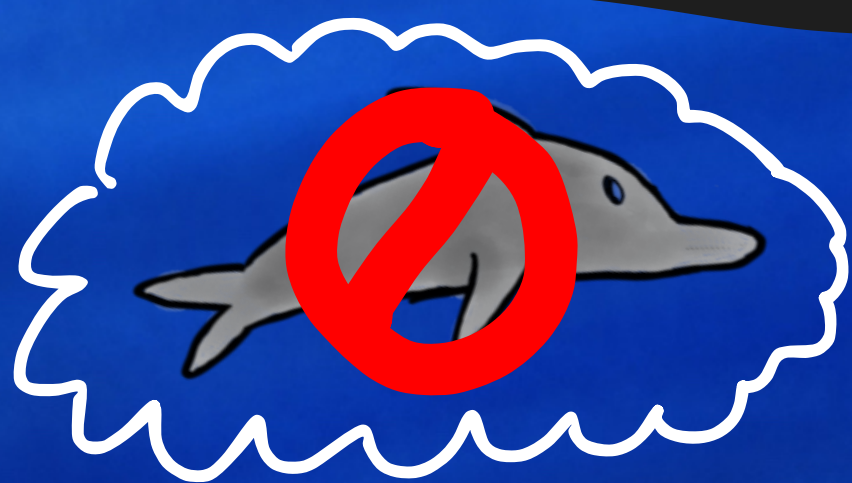
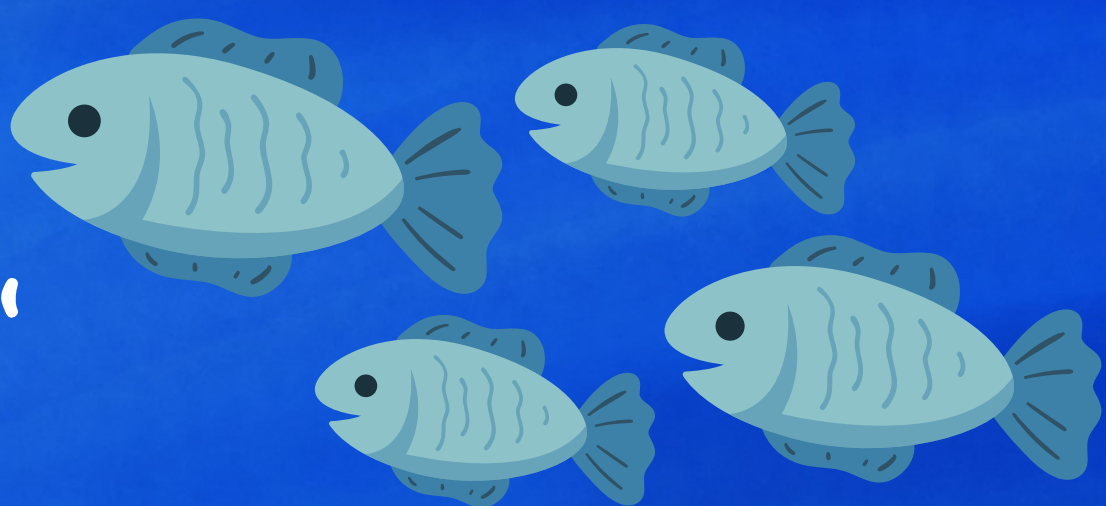
その二人がプラスチックをまだ持つているイルカさんに着いたら、カニ先生は「イルカさん、来い！」って叫びました。イルカさんは黙ってカニ先生に連れて行かれてるうちに、後ろでまた笑っているサメさんとチョウチンさんを見ると騙されたのに気づきました。「やっぱ」って考えました。





イルカさんが、
プラスチックを
持っていたらしい

え〜
ぐっばい



クスクス



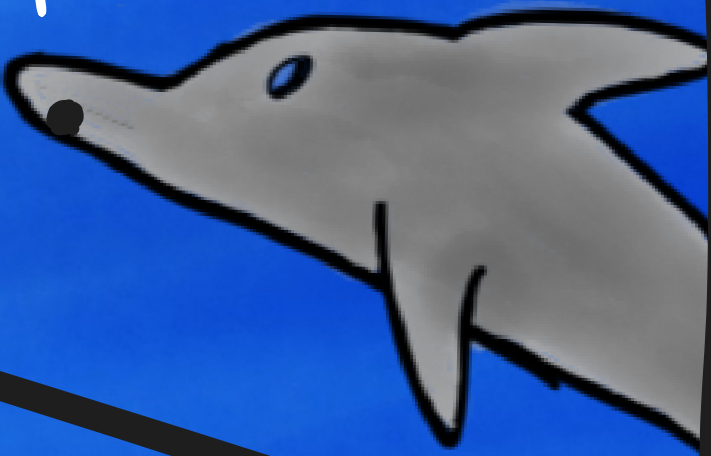
フッフ

その間にもチヨウチンさんは学生たちにイルカさんがプラスチックを持っているって噂を伝えていました。イルカさんとカニ先生が話し終わった頃までにほとんどみんながその噂をもう聞いたのです。噂を広げるほど、みんなはイルカさんへの意見が変わって、意見が変わるほど、真実はイルカさん以外誰にも知られなくなってしまうたのです。

ね、ね。どうしたの？



カニ先生によると学校と
免が強に集中すれば
いいんだ



えへ、それ
だけって
本当？

○
○ あのさ
○



うわ！
だめだよ！

大丈夫だろう



イルカさんが出るとエビさんは「どうしたの」「つてささやきました。実はイルカさんが水泳部を休ませられたけど、言いにくすぎました。より悲しそうにイルカさんは「あのさ、その上水泳部の部長じゃなくなってしまうみたいだ。」つて言いました。怖がったエビさんはささやきました「でも、ね〜プラスチックの噂つてささ〜、本当なの？」イルカさんは返事しました。「ううん、だけど心配しないで。できることつて、私らしくするのしか何もない。大丈夫だと思おう。」これがエビさんは分からなかったのだけど、イルカさんの親友なら時々理解より信用が大事つて信じていました。

それから、イルカさんの日常がもう少し大変になってきました。みんなはイルカさんが怖いと思っていました。友達を作りにくいし、クラスメイトが嘘を信じるし、イルカさんは結構寂しくなりました。こんな感じになるたびに一人で泳ぎました。それで、イルカさんはよく一人で泳ぎました。



数ヶ月が過ぎ去ったらいルカさんはまた水泳部に加われました。加わった後で、まずはみんながまだ怖がりすぎて誰とも連れて泳ぎたくなかったです。エビさんだけで泳ぎの練習を、イルカさんが水泳部を休ませられた間にはカジキより早く泳げるほど泳ぎの練習を頑張りました。誰もイルカさんみたいに泳げるのを見たこともないし、学生たちはイルカさんの泳ぎを見に集まって、少しずつみんなはまたイルカさんに興味を持ちました。





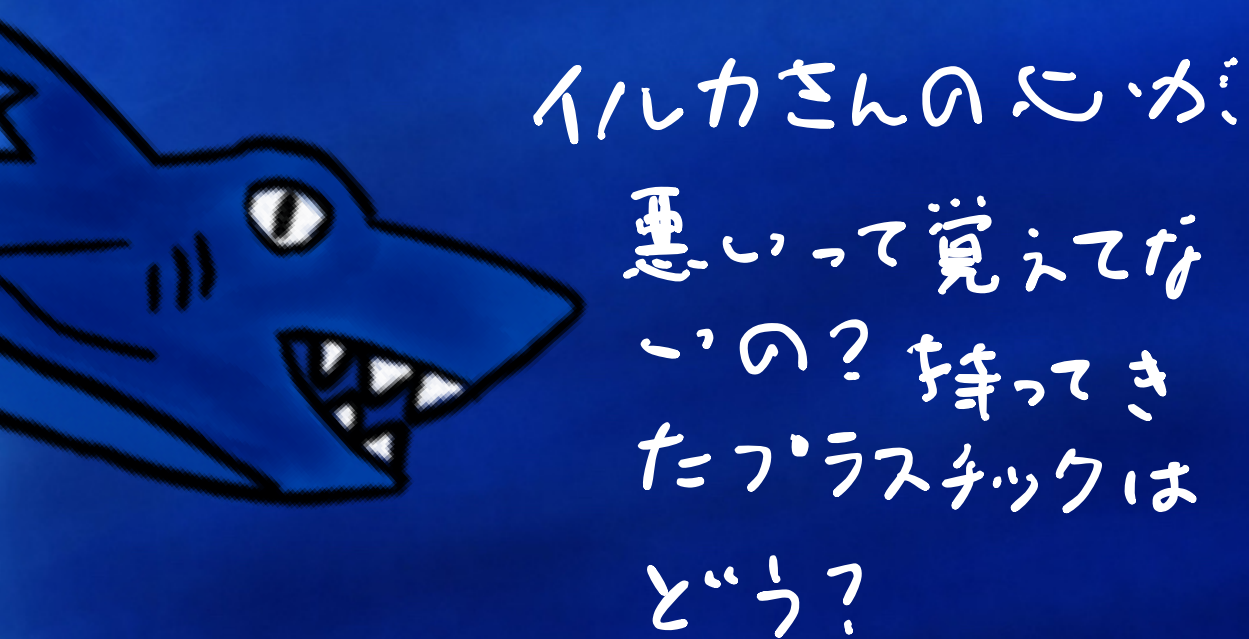
イルカさんが、みんなに
人気になって、喜んで
どうして？



うーん、
お高兴的だろ！

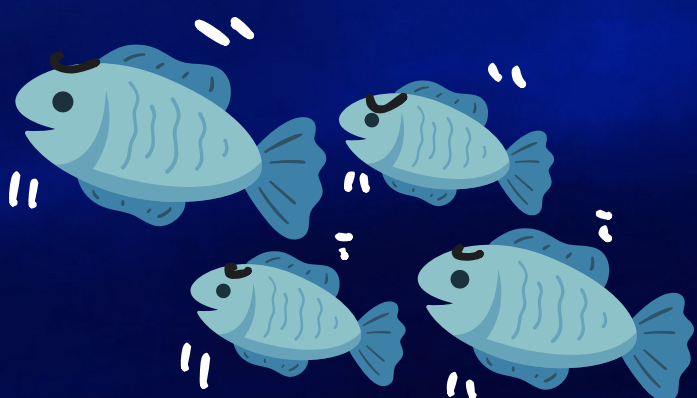


だめ！



イルカさんの心が
悪いって覚えてな
いの？ 持ってきた
プラスチックは
どう？

おのう～



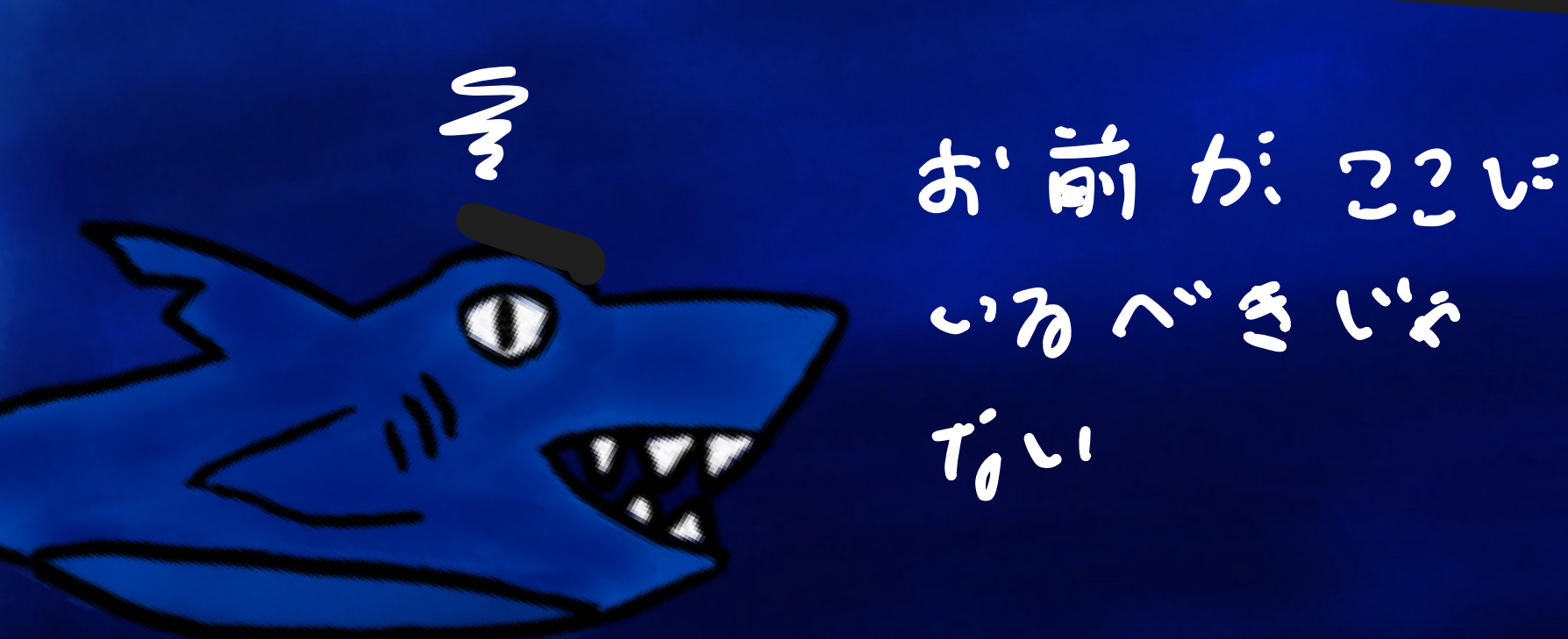
ある日、イルカさんの辺りで特に多くの人が集まってきた。サメさんが見て怒りました。二人はそちらへ向かうとイルカさんが泳いでいるのが見えました。チヨウチンさんはびつくりしました。サメさんは心配そうでした。



うそだよ!
イルカさんじゃ
なくて、サメ
さんだったよ!

え〜

エビさんを信じます。
ある日、サメさんにいじめ
られて、イルカさんが助け
くれました。忘れていないんだ。

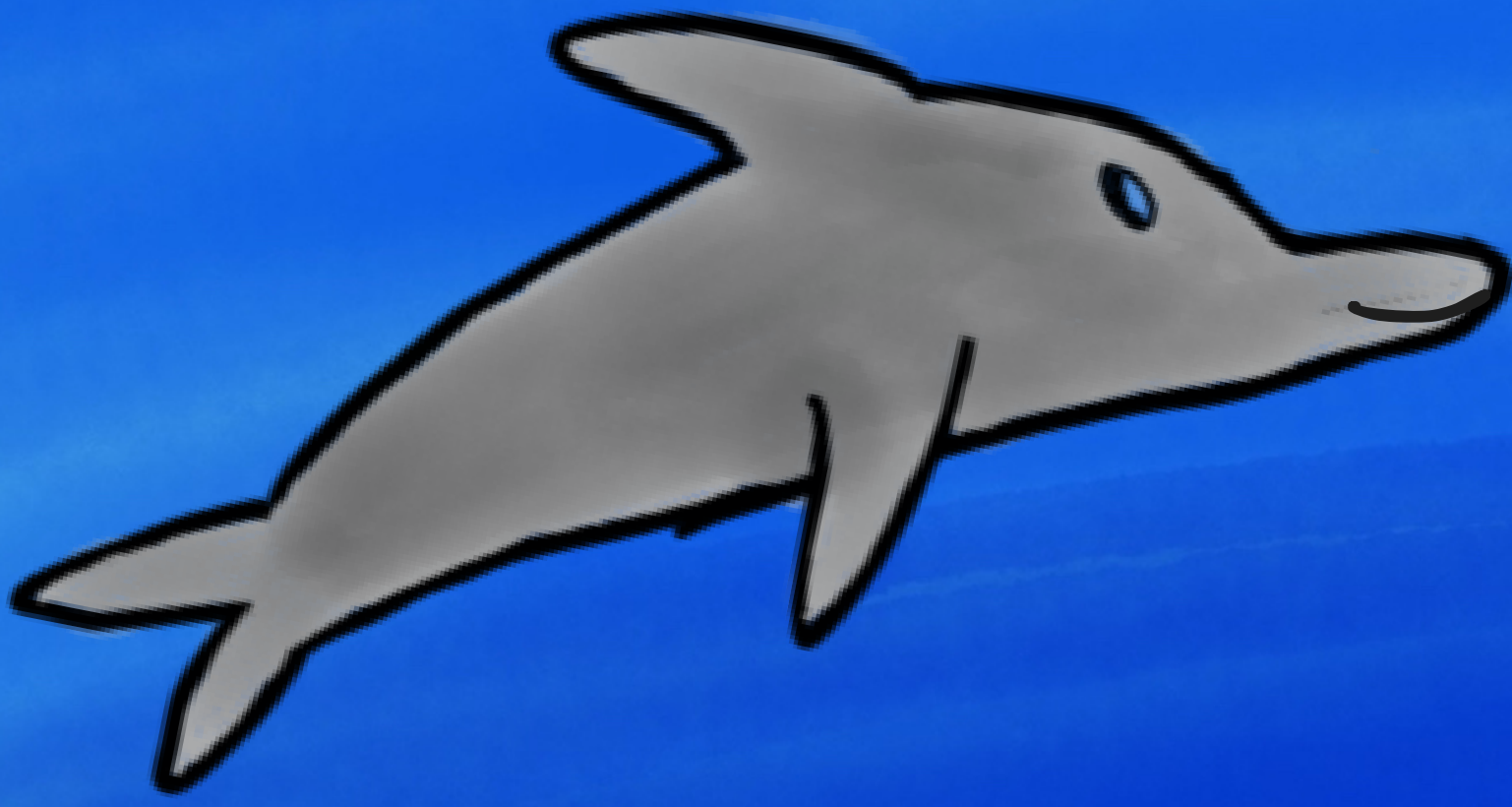


お前が、さっさい
いるべきじゃ
ない

エビさんは話してみんながびっくりしました。そしてトラフグさんが出て言いました。それで、怒っているサメさんがトラフグさんを噛むところだけど、イルカさんは急にきてしつぽでサメさんを叩きました。

怖がらないイルカさんはトラフグさんを守りながら、エビさんに、「先生に手伝ってもらえるか聞いて欲しい」みたいな顔で見ました。了解したエビさんは行って少し後でカニ先生を連れて戻りました。カニ先生は言いました「サメさん、いじめてはだめって知っているよね。来い。」その二人が出て行くのを見てから、後悔した学生たちはイルカさんに謝り始めました。でも、いい友達みたいなエビさんがいれば、イルカさんは他人の意見があまり構わなかったんです。





終わり!

